

2004.3月20 ~ 21日

取立山 / 銀杏峯



【山 域】取立山 1307m

【場 所】福井県

【日 時】3月20日(土)

【コース】東山いこいの村-取立山-1383 ピーク往復

【メンバー】石野・大塚・大倉・大本

20日 取立山 1307m 晴れ/小雪

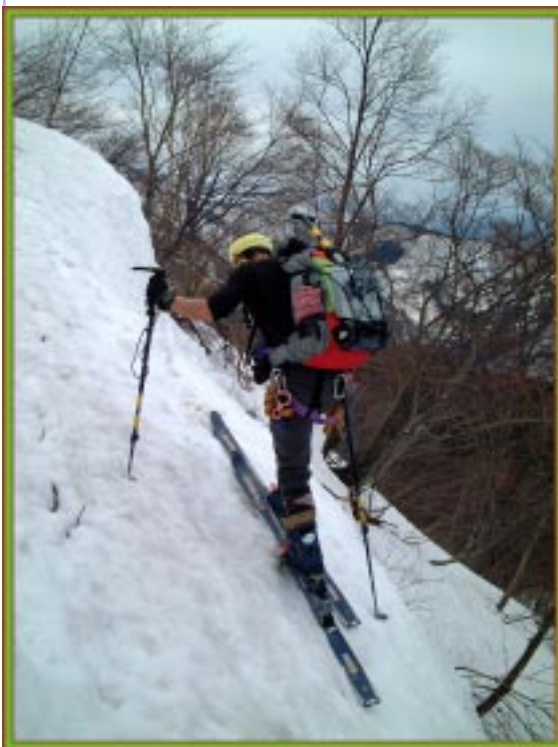
2:00 姫路出発

加古川経由で山陽自動車道に乗り、いつも混む大津を回り込んで京滋BPで北陸自で福井北へ・・・

7:00 東山いこいの森 710m 0°



東山いこいの村からスタート



シール登山限界まで頑張る

白山街道の道中の東山いこいの森のドン詰まりまで車を運ぶ。

まだ誰も来ていないようだが、準備をしている最中にたくさんの登山者がどんどん登って行く。やはり低山ではあるがポピュラーな山であることが伺える・・・兵庫の氷ノ山のような。

この時点でアクシデント発生！！

な、な、何と、大倉氏がブーツを忘れてきている(-_-);、これには一同唾然としてしまう。「おまえはアホか～」である。しかし私が今回試しにとグレンドブーツで登る予定をしていたのでツアーブーツを予備に積んでいたのだ。少しサイズが違うがこれで我慢するしかないでしょ、私のインナーがまたまたへたってしまう(>_<)。

取り付きは氷ノ山のように方々からあるわけではなく、いこいの森からだけのようにトレースもすっかりしていて林道のような登山道があって地図読みなど全くいらなくらいだ、期待をしていた山だけにチャレンジ精神が損なわれる(あとで痛～い目にあう)。



林道をカットして急斜面へ



素晴らしい景色に囲まれてルンルンだ！

雪質は朝一とあって気温も0度に近くよく締まっています。シールでサクサクと高度を稼いでいく、いつもの冒険意欲が出て林道をショートカットしながら杉林やブナ林を横切っていく(実は急がば回りで林道に行くのが早い時もある(^_^;))。

9:08 1120m ピーク

天候も快晴とはいかないが、高曇りで視界もはっきりとしていて大野盆地(勝手につけている)を囲む山様が現れる、大日岳、荒島岳、そしてこの角度から見る真っ白くでっかい白山は初めてで感動ものである。

9:30 取立山 1307m

ここまでの行程は1120m ピークから少しヤセ尾根があったもののブッシュに阻まれるのではなく、視界も開けているせいでなんら問題なく2時間弱で汗もかかずにアツという間に山頂に着いてしまった。しかしここから車まで下って降りるのは30分はかからないので、そのまま銀杏峯か荒島岳へ行こうかと思ったが、この山頂でシニア登山者夫婦に「ここで下るのはもったいないからあの鉢伏



1383m ピークから鉢伏山

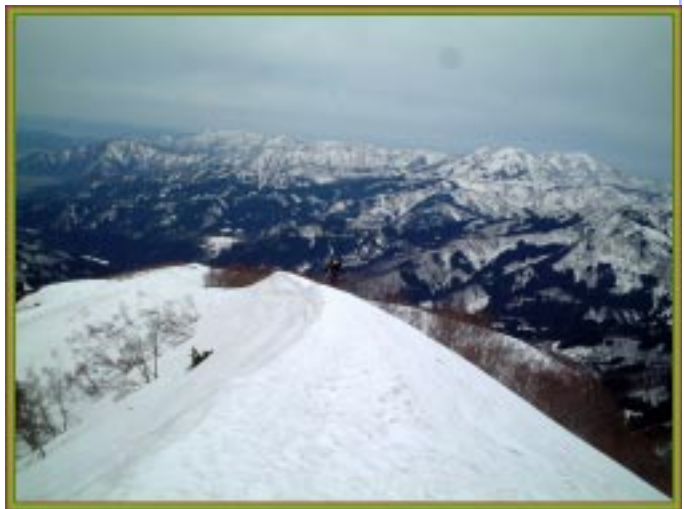


1383m ピークから取立山へ滑降

山まで行くと面白いよ」と言われ時間も早すぎるので急遽ルートを延ばすことにした。しかしこの山頂から見える360度のパノラマは素晴らしいの一言である。

10:35 1383m ピーク

取立山からシールを外しガリガリの斜面を金属音きしませながら滑降して再びシールを付けて登りこのピークに着く。ここからまたシールを外して下り鉢伏山へと登り詰めるのだが、ここで再びアクシデント発生!!。シールを外している時に手が滑り、おもいっきり顔面にエッジが強打し下唇と内唇を切ってしまう、真っ白いキャンパスにほとばしる真っ赤な鮮血・・・バンドエイドで傷口を塞いで急いで止血するが、



雄大な景色を後にヤセ尾根をいく

キズの深さが3mmで長さが10mmなので縫うほうが、治りが早いと判断し、みんなには悪いがここで一緒に下山にしよう。

12:30 車デポ地点

取立山に戻るころには大勢の登山者やボーダー、山スキーヤーが来ていた。みんなを横目にさっさとヤセ尾根をトラバースし、急斜面を快適に下りアッと言う間に駐車地点に着いた。

早速に119番で今日の救急病院を調べてもらい「福井社会保険病院」で3針縫ってもらった(これで安心)。明日も滑るぞ~(^o^)

病院横の温泉で汗を流し、すき焼き材料を仕入れて、一路銀杏峰のふもとへと車を移動する。

宝慶寺手前のポンプ小屋にいいテント場を見つけて早速に晩餐会に取りかかる、夜は久々に見る宝石を散りばめた満天の星空に感動し、明日の山を夢見て眠りにつく。

【山 域】銀杏峯 1440m

【場 所】福井県

【日 時】3月21日(日)

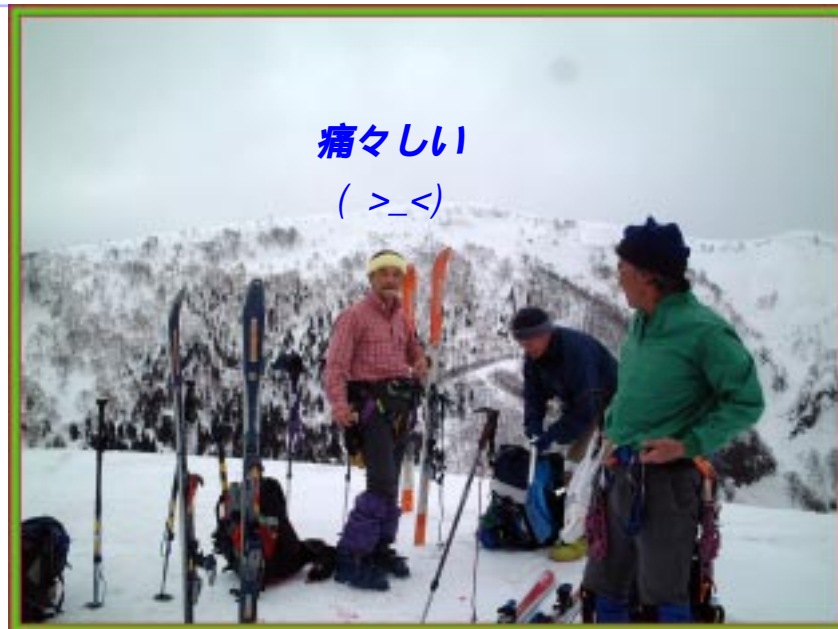
【コース】いこいの村-古葉尾根-銀杏峯-古葉谷-いこいの村

【メンバー】石野・大塚・大倉・大本

21日 銀杏峯1440m 快晴

5:00 起床

東の空が色づいて雲一つない青空がだんだん見え始める。朝食を済ませてテントを撤収し道路に降りると、10台ほどの山スキーヤーの車が止まっていてそれぞれ装備確認をしている、昨日と打って変わっての山スキーヤーの多さに驚き、気分も高揚してo(^o^)o ワクワクしてくる。それぞれにどのルートから入山するのかを確認すると夏道や林道とまちまちであった。我々は山頂へ突き上げる最短尾根の古葉尾根にルートを絞る。



痛々しい
(>_<)



ポンプ小屋上部でキャンプ

7:20 いこいの森スタート 480m

駐車場から林道に入りすぐシールでサクサクと杉林を登っていく。林道終点から程なく尾根をのぼり始めてブッシュかき分け古葉尾根にたどりつく。



林道から尾根に取り付く

9:05 1150m ピーク

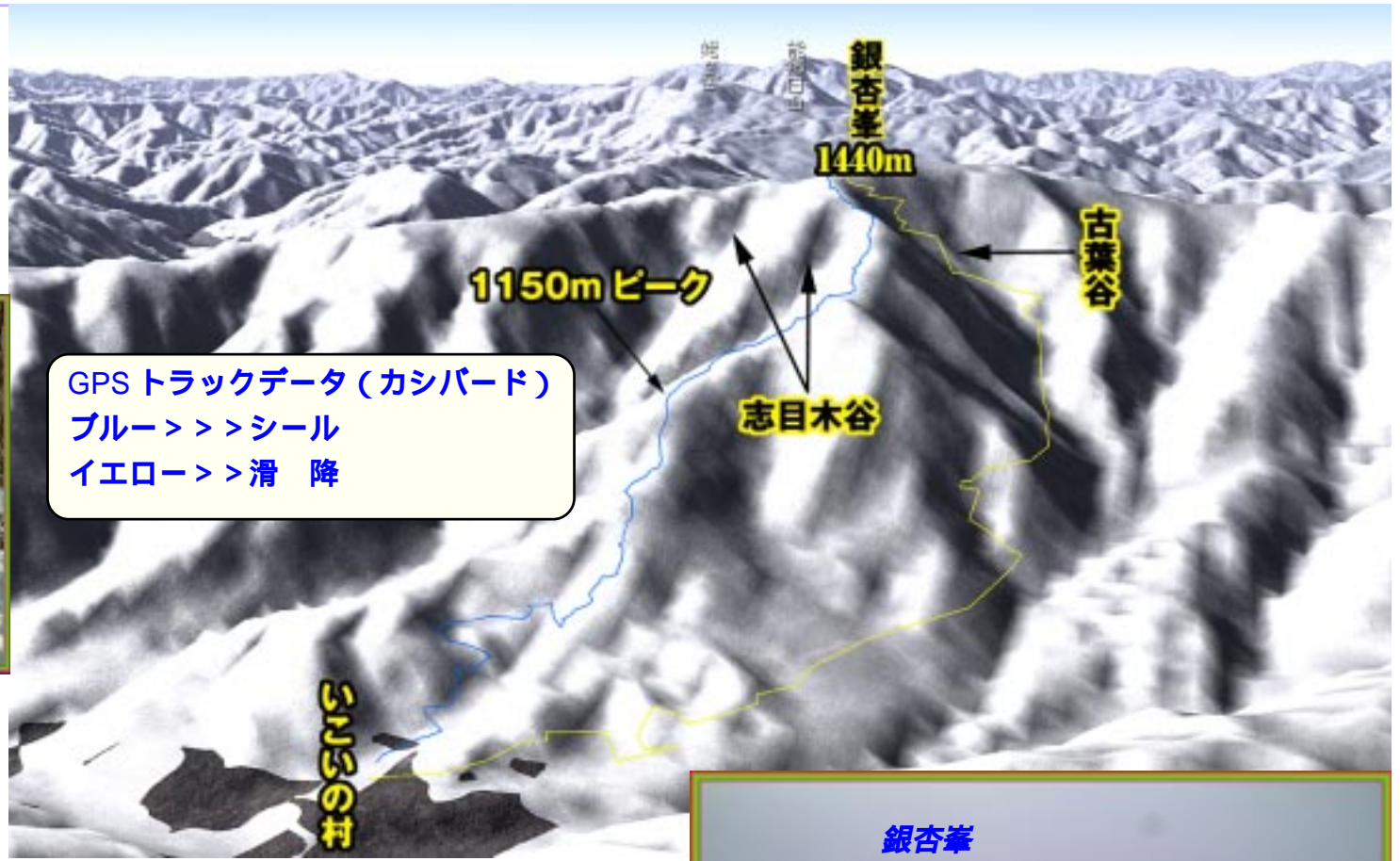
地図上では山頂までの約半分くらいに位置する辺りにこのピークがある。

このピークからは昨日同様に360°の大パノラマであるが、取立山からはあんなに大きく見えた白山が小さく見える、しかし荒島岳がまるで劔岳のように猛々しく急峻な斜面を従えて聳え上がっているのが印象的である。

銀杏峯の山頂はすぐそこに見える、滑降予定の志目木谷を横目にピークから少し下り再び登りが始まる。

10:12 銀杏峯 1440m

山頂に近づくとつれて風が出てきて、気温も下がってきたようでシールが凍りだし食いつきが悪くなりだす。山頂直下から志目木谷を覗き込むが滑り出しはなかなかの急斜面で広く今にも飛び込みたい意欲がそそるが、程なく下方を見れば堰堤近くは雪切れで沢が見えているのではないかと、これでは堰堤からは渡渉は免れないだろう(-_-;)。



GPS トラックデータ (カシバード)
ブルー>>>シール
イエロー>>滑降



1150m ピークにて



山頂の祠前でランチタイム



古葉谷へカッ飛ば



古葉谷への取り付き



堰堤からは林道をショートカットで滑降

山頂近くで単独スキーヤーに出会い「どこへ滑降ですか？」と聞くと「古葉谷です」と・・・彼はこの谷を登りつめて来たので雪付きも堅さも申しぶんない、と言っていたので我々も志目木谷をあきらめて急遽古葉谷を下ることに決める。

山頂の祠下でスコップとスノーソーを取り出しテラスを作って昼食に取りかかっていると、今朝のパーティが続々とやってきた。彼らも志目木谷を狙っていたのだが、我々の意見を聞いて古葉谷を下ることにしたようだ。

11:26 滑降スタート

古葉谷への取り付きは何と5mの雪壁をクリアしなければ谷に降りれない、しかし先行トレースはほどなくクリアしている様子なので勇気を出して横滑りでアイスバーンに金属音をききませながら降りていく。そこからは双六谷を思い出させるような急斜面が待ちかまえているではないか！、楽しいくらいに気合いが入ってくる。いつものように戦陣を切りジャンプしてカッ飛んでいき下からビデオ撮影に両足を踏ん張って小さなファインダーを覗き込む(これが非情に疲れるのだ！)。大倉氏や大本が次々と小さな滑落劇を見せてくれる(^O^)。この谷はまるで大きなトコを滑っているようで斜面から斜面へと飛び移ってまるでジェットコースターのような気分で最高の楽しませてくれた。だんだんと雪質も柔らかくなるころには堰堤に着く、それを越せば林道に出る。しかし谷の真上を滑降しているので条件しだいでは雪崩やスノーブリッジ崩壊でとんで

もない谷に変貌するのは目に見えている。このたびの滑降はよほど良い条件に当てはまっていたと思う。

12:40 駐車場着

林道をストックを突きながら板を押し込み雪切れまで滑り込むとアスファルト道へ出る。そこから板を担ぎ15分ほど下ると無事に駐車場にたどりつく。しかし日が続つに連れて林道の雪も途切れがちになり担ぎの歩きが多くなるのは必死であろう。

駐車場ではいいの森の管理人のおじさんにお茶をご馳走になり親切にしてくださいまして感謝感謝である。

PS.

この二日間ともに上天気恵まれてこの時期に山頂から素晴らしき白山を始め御嶽山・乗鞍岳・中央AL・穂高連峰など素晴らしき山並みが見られた。夜には満天の星空と恵まれ過ぎたのにも関わらず、少しの油断からブーツは忘れるワ、怪我をするワで取立山に申し分けなく反省するしだいである。

取立山や銀杏峯からの山頂からは色んな山並みが見渡されて今後また色々な縦走計画が練れそうで楽しみである。4時間ほどで来れる福井北ICは白山以外に降りたことが無かったが、こんな低山でも楽しませてくれるのであればこれからが楽しみである。

・・・・福井の山並みに感謝・感謝(^O^)・・・・



素晴らしき急斜面の古葉谷



次回は荒島岳にチャレンジだ!